

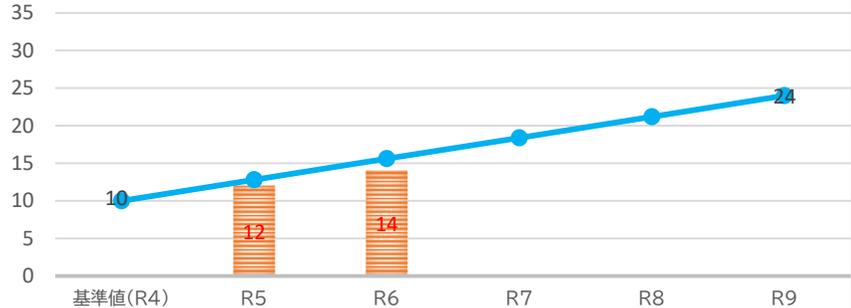
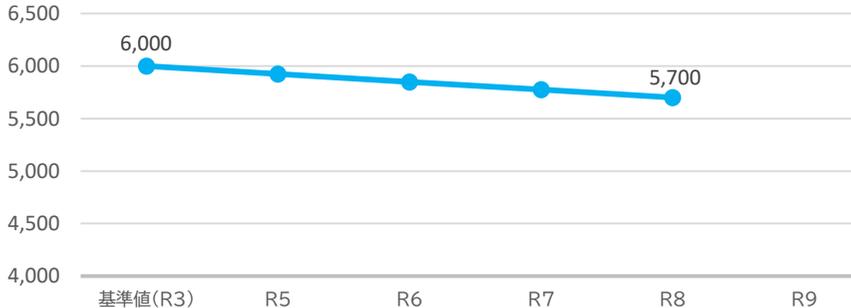
## 群馬県交通まちづくり戦略【地域公共交通計画】各指標の進捗状況(R5年度未実績)

番号	標準指標	基準値	R5目標値	R5実績値	評価年度	分科会
1	公共交通の利用者数（鉄道＋乗合バス）	4,276万人 (R2年度)	4,745	5,683	R 5	フォローアップ分科会
2	市街化区域内人口密度	67.3人/ha (R3年度)	66.6	67.3	R 5	フォローアップ分科会
3	公共交通への公的資金投入額	—	—	—	R 5	生活交通分科会
4	公共交通の収支率	—	—	—	R 5	生活交通分科会
番号	個別指標	基準値	R5目標値	R5実績値	評価年度	分科会
<b>【計画目標 1】ニューノーマルにも対応した安全・快適で持続可能な公共交通サービスの確保・維持</b>						
再掲	公共交通の利用者数（鉄道＋乗合バス）	4,276万人 (R2年度)	4,745	5,683	R 5	フォローアップ分科会
1	地域公共交通計画の策定市町村数（旧網形成計画を含む）	10 (R4年度)	—	12	R 9	フォローアップ分科会
<b>【計画目標 2】DX・新技術導入による公共交通サービスの効率化・高度化</b>						
2	駅周辺における乗用車交通量の平均値	6,000台 (R3年度)	—	—	R 8	フォローアップ分科会
3	MaaSサービス月平均利用件数	14,000件 (R3年度)	14,000	7,203	R 5	フォローアップ分科会
<b>【計画目標 3】交通まちづくり分野の脱炭素化の推進〔G I〕</b>						
4	運輸部門における二酸化炭素排出量	4,054千t/CO2 (H25年度)	2,583	3,497 (R3年度)	R 5	フォローアップ分科会
5	公共交通教室（バスの乗り方教室）延べ開催校数	117校 (R4年度)	129	136	R 5	フォローアップ分科会
6	中高生の通学経路における自転車通行空間の整備率	13% (R1年度)	—	93	R 9	フォローアップ分科会
<b>【計画目標 4】まちづくりと連携した基幹公共交通軸の確保・維持（市町村域を越える広域的な公共交通）</b>						
7	拠点＋公共交通ネットワーク図に位置づけた幹線の利用者数	4,021万人 (R2年度)	4,455	5,408	R 5	フォローアップ分科会
8	県内主要20駅におけるバリアフリー化率	78% (R4年度)	—	81	R 7	フォローアップ分科会
9	立地適正化計画策定市町村数	13 (R4年度)	—	13	R 9	フォローアップ分科会
<b>【計画目標 5】まちづくりと連携した地域的な暮らしの足の確保・維持（市町村内における多様な移動手段）</b>						
再掲	地域公共交通計画の策定市町村数（旧網形成計画を含む）	10 (R4年度)	—	12	R 9	フォローアップ分科会
再掲	立地適正化計画策定市町村数	13 (R4年度)	—	13	R 9	フォローアップ分科会
10	拠点＋公共交通ネットワーク図に位置づけがない幹線以外の利用者数	256万人 (R2年度)	290	276	R 5	フォローアップ分科会

# 【標準指標】

標準指標1	公共交通の利用者数（鉄道＋乗合バス）						標準指標2	市街化区域内人口密度					
考え方	人口減少に加え、コロナ禍における人々の意識の変化により、交通需要がコロナ前の水準に完全には戻らないと予見されていることを踏まえ、本県においては、コロナにより3割減少した旅客需要の半数を、R9年度までに取り戻すことを目標とします。						考え方	群馬県人口の推移と同様に市街化区域内人口が減少した場合、市街化区域面積を現在と同じとすると、20年後の県内各市町村の市街化区域内における人口密度が57.2人/haまで減少することが危惧されます。そのため、まちのまとまりが形成されることで、人口減少下においても、市街地として望ましい人口密度（60人/ha以上）を維持するものとして設定しています。本計画で展望している概ね20年後においても望ましい人口密度を維持するものとして、各年度の数値目標を設定しました。【都市計画課】					
(万人)	基準値(R2)	R5	R6	R7	R8	R9	(人/ha)	基準値(R3)	R5	R6	R7	R8	R9
目標値	4,276	4,745	4,893	5,040	5,188	5,335	目標値	67.3	66.6	66.2	65.8	65.4	65.1
実績値		5,683					実績値		67.3				
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>【現在の状況及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍前H30（6,308万人）、R1（6,282万人）までは戻っていないが、R5時点でR9年度目標を達成した。※R4（5,348万人）</li> <li>・基準年度(R2)比32.9%増</li> <li>・地域連携ICカード「nolbé（ノルベ）」の普及により路線バスの利便性が向上した。</li> </ul> <p>【今後の取り組み】</p> <p>GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。</p>						<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>県内各都市の中心市街地において、全般的に人口減少が進行している傾向にあるため、平成30年度に対して令和4年度は人口密度が微減となっているが、ほぼ横ばいを維持している。（現状値：67.3人/ha／目標値：60人/ha以上の維持）</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>今後も、県と市町村で協力して、立地適正化計画の居住誘導区域の設定や市街化調整区域の地区計画など郊外の土地利用規制を組み合わせ、「まちのまとまりづくり」を進める。</p>						

## 【個別指標】

個別指標1	地域公共交通計画の策定市町村数（旧網形成計画を含む）						個別指標2	駅周辺における乗用車交通量の平均値																																															
考え方	国の方針となる第2次交通政策基本計画では、5か年（R2～R6）で国内約7割の自治体における地域公共交通計画を策定することを目標としており、これに準じて、本県においても5か年（R5～R9）で35市町村のうち、約7割の策定を目指します。						考え方	MaaSなどの導入・普及による公共交通サービスの効率化・高度化により、自家用車から公共交通や自転車などへの転換を促し、駅周辺の乗用車交通量の減少を目指します。																																															
(市町村)	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	R9	(台)	基準値(R3)	R5	R6	R7	R8	R9																																										
目標値 	10					24	目標値 	6,000				5,700																																											
実績値 		12	14				実績値 																																																
 <table border="1"> <caption>地域公共交通計画の策定市町村数</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(R4)</td> <td>10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>24</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							年	目標値	実績値	基準値(R4)	10		R5		12	R6		14	R7			R8			R9	24		 <table border="1"> <caption>駅周辺における乗用車交通量の平均値</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(R3)</td> <td>6,000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>5,700</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							年	目標値	実績値	基準値(R3)	6,000		R5			R6			R7			R8	5,700		R9		
年	目標値	実績値																																																					
基準値(R4)	10																																																						
R5		12																																																					
R6		14																																																					
R7																																																							
R8																																																							
R9	24																																																						
年	目標値	実績値																																																					
基準値(R3)	6,000																																																						
R5																																																							
R6																																																							
R7																																																							
R8	5,700																																																						
R9																																																							
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<b>【現在の状況及び課題】</b> ・ R5策定実績（R5.3 長野原町、R6.3 沼田市） ・ R6.10時点策定実績（R6.4 甘楽町、R6.6 桐生市） <b>【今後の取り組み】</b> ・ 策定中：安中市（R7年度末策定予定）、みどり市（R7年度末策定予定）						R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	※「全国道路・街路交通情勢調査」（旧：道路交通センサス）は概ね5年ごとに実施されるため、R5実績値は無し H27センサス：5,819台 R03センサス：6,031台【基準】																																															

## 【個別指標】

個別指標3	MaaSサービス月平均利用件数						個別指標4	運輸部門における二酸化炭素排出量					
考え方	MaaSなどの導入・普及による公共交通サービスの効率化・高度化により、自家用車から公共交通や自転車などへの転換を促し、駅周辺の乗用車交通量の減少を目指します。						考え方	「群馬県地球温暖化対策実行計画2021-2030」に基づき、脱炭素化を推進したアウトカムとして、CO2排出量を評価します。2030年度までに、基準年度比(H25年度)でCO2排出量の50%削減を目指します。【グリーンイノベーション推進課】					
(件)	基準値(R3)	R5	R6	R7	R8	R9	(千t/CO2)	基準値(H25)	R5	R6	R7	R8	R9
目標値	14,000	14,000	15,000	16,000	17,000	18,000	目標値	4,054	2,583	2,436	2,289	2,142	1,994
実績値		7,203					実績値		3,497				
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>トップページの改修等のUI/UXの改善や利用者支援として鉄道駅等で登録相談会を開催し、利用促進を図った（R5実績：38回）。登録者数は順調に増えていることから、日常利用につながる改善やプロモーションを行い、アクティブユーザーを増やすことが課題となる。</p> <p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・UI/UXの改善（バスロケシステム改善、時刻表機能追加等）</li> <li>・登録相談会の開催及びプロモーションの実施</li> <li>・交通のサブスクリプションモデルの実装</li> </ul>						<p>R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕</p> <p>※群馬県地球温暖化対策実行計画2021-2030</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運輸部門の二酸化炭素排出量（R3年度実績が最新）</li> <li>・前年度比-0.2%【前年度(R2年度)：3,504千t/CO2】</li> <li>・基準年度比-13.7%【基準年度(H25年度)：4,054千t/CO2】</li> <li>・基準年度からは概ね減少傾向</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大で停滞していた経済活動の再開により県内の消費エネルギーが全体的に増加傾向にあるため、運輸部門における削減率は大きくない。</li> </ul>						

## 【個別指標】

個別指標5	公共交通教室（バスの乗り方教室）延べ開催校数	個別指標6	中高生の通学経路における自転車通行空間の整備率										
考え方	県内小学校で公共交通教室（バスの乗車体験等）を開催することにより、公共交通への理解を深め、利用促進を図ります。	考え方	本県の中高校生1万人あたりの自転車関連事故数は全国ワースト1位であることから、「ぐんま・県土整備プラン2020」の目標年であるR11年度までに中高生の通学経路における全ての自転車通行空間の整備を完了させることを目標とします。【道路管理課】										
(校)	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	R9	(%)	基準値(R1)	R5	R6	R7	R8	R9
目標値	117	129	141	153	165	177	目標値	13					87
実績値		136					実績値		93				
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>【現在の状況及び課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5年度開催実績は19校</li> <li>・アンケート結果より参加者の92.3%が今後バスに乗ってみたいと回答</li> </ul> <p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年の開催校数12を維持する。</li> </ul>						<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>中高生の通学時1万人当たりの自転車事故件数が全国ワースト1位(令和4年)であることから、中高生の通学する自転車通行空間を優先し、令和5年度は、県道寺尾藤岡線などで自転車通行空間の整備を推進した。自転車ネットワーク路線における中高生の通学経路170kmのうち157.9kmの整備が完了し、指標の進捗は順調に推移している。</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>引き続き、中高生の通学する自転車通行空間の整備を推進する。</p>						

## 【個別指標】

個別指標7	拠点＋公共交通ネットワーク図に位置づけた幹線の利用者数						個別指標8	県内主要20駅におけるバリアフリー化率																																	
考え方	【標準指標1】「公共交通の利用者数」の考え方に準拠						考え方	誰もが利用しやすい基幹公共交通軸の実現に向け、バリアフリー法に基づき、県内主要20駅におけるバリアフリー化を達成することを目標とします。（R7までに乗降客数3,000人超および自治体が策定するバリアフリー基本構想の生活関連施設に位置付けられた2,000人超駅でのバリアフリー化を達成、R8年度以降は国の定める新たな基本方針に基づいて整備を促進する。）																																	
(万人)	基準値(R2)	R5	R6	R7	R8	R9	(%)	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	R9																												
目標値	4,021	4,455	4,592	4,728	4,864	5,000	目標値	78			88		100																												
実績値		5,408					実績値		81																																
<table border="1"> <caption>利用者数 (万人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>利用者数 (万人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(R2)</td> <td>4,021</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>5,408</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>4,592</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>4,728</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>4,864</td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>5,000</td> </tr> </tbody> </table>							年度	利用者数 (万人)	基準値(R2)	4,021	R5	5,408	R6	4,592	R7	4,728	R8	4,864	R9	5,000	<table border="1"> <caption>バリアフリー化率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>バリアフリー化率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(R4)</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>							年度	バリアフリー化率 (%)	基準値(R4)	78	R5	81	R6		R7	88	R8		R9	100
年度	利用者数 (万人)																																								
基準値(R2)	4,021																																								
R5	5,408																																								
R6	4,592																																								
R7	4,728																																								
R8	4,864																																								
R9	5,000																																								
年度	バリアフリー化率 (%)																																								
基準値(R4)	78																																								
R5	81																																								
R6																																									
R7	88																																								
R8																																									
R9	100																																								
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>コロナ禍前H30 (5,894万人)、R1 (5,844万人) までは戻っていないが、R5時点でR9年度目標を達成した。※R4 (5,049万人)</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。</p>						R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>※R5整備進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 桐生駅(JR両毛線)：案内設備</li> <li>・ 新町駅(JR高崎線)：案内設備、障害者トイレ</li> </ul>																																	

## 【個別指標】

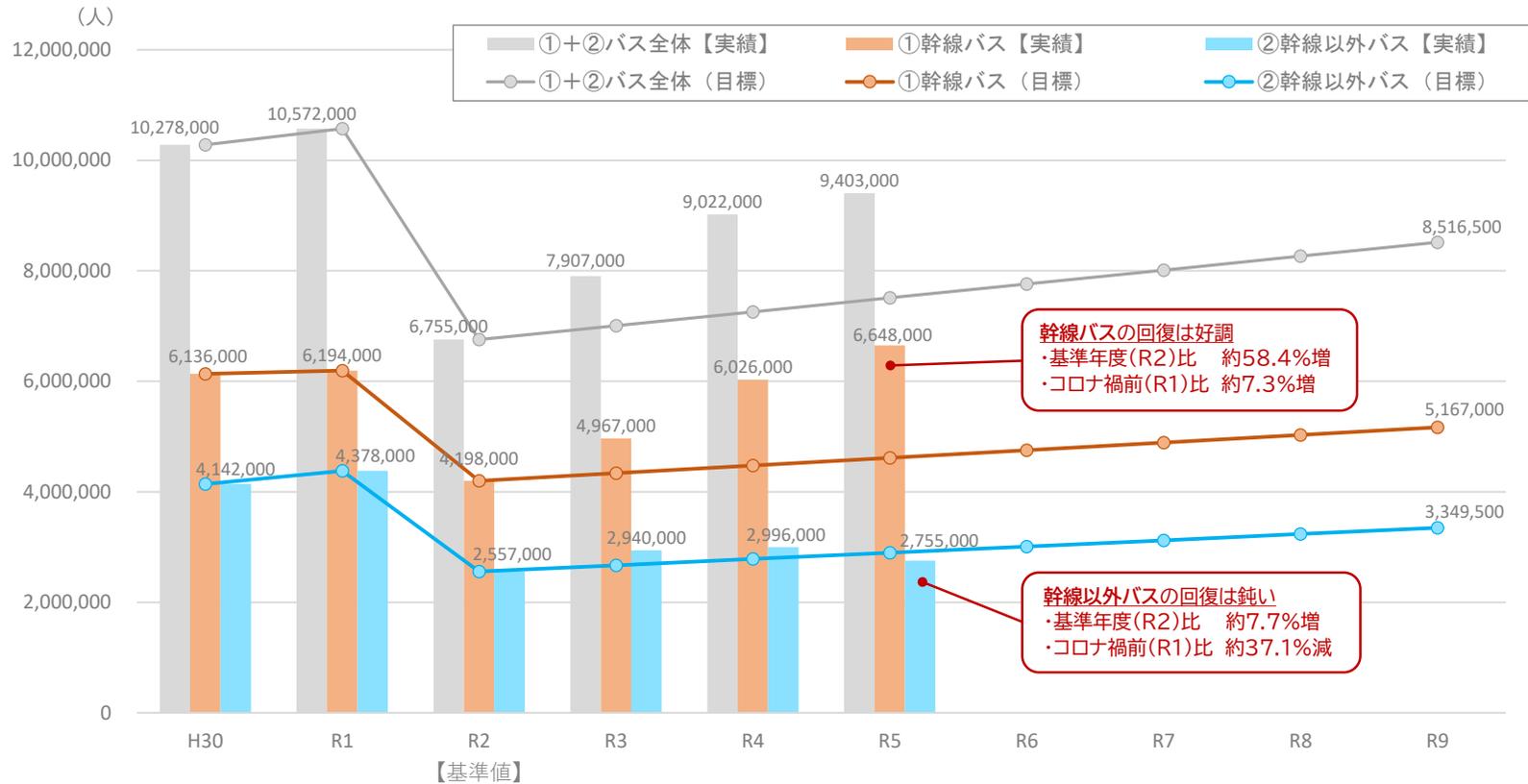
個別指標9	立地適正化計画策定市町村数						個別指標10	拠点+公共交通ネットワーク図に位置づけがない幹線以外の利用者数					
考え方	都市機能集積を促進するため、都市計画区域を有する27市町村のうち、「ぐんま・県土整備プラン2020」の目標年であるR11年度末までに18市町村において立地適正化計画の策定を完了させる目標とします。【都市計画課】						考え方	【標準指標1】「公共交通の利用者数」の考え方に準拠					
(市町村)	基準値(R4)	R5	R6	R7	R8	R9	(万人)	基準値(R2)	R5	R6	R7	R8	R9
目標値	13					17	目標値	256	290	301	312	324	335
実績値		13					実績値		276				
R5実績 〔現在の状況と今後の取組等〕	<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>計画策定に着手した13市町村のうち、令和4年度末までに、前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市、太田市、館林市、富岡市、明和町、邑楽町、藤岡市、吉岡町、渋川市、千代田町の全てが計画策定を完了し公表した。指標の進捗は順調に推移している。</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>県は、未策定市町村に対する働きかけを継続しつつ、令和5年度以降計画策定予定市町村の策定準備に対する支援を行う。</p>						<p>【現在の状況及び課題】</p> <p>基準値R2（256万人）からは回復しているが、R5年（290万人）の目標は達成していない。※コロナ禍前H30（414万人）、R1（438万人）</p> <p>【今後の取り組み】</p> <p>GunMaaS等のDX推進により利便性の向上を図り、公共交通の利用者数回復を目指す。</p>						

# 【参考】

関連指標

標準指標1・個別指標7・個別指標10

## 公共交通【乗合バス】の利用者数推移（H30～R5）



# 【参考】

関連指標

標準指標 1

## 公共交通【鉄道】の利用者数推移（H30～R5）

